

都市再生整備計画 事後評価シート
尾張旭中央地区

令和2年3月

愛知県尾張旭市

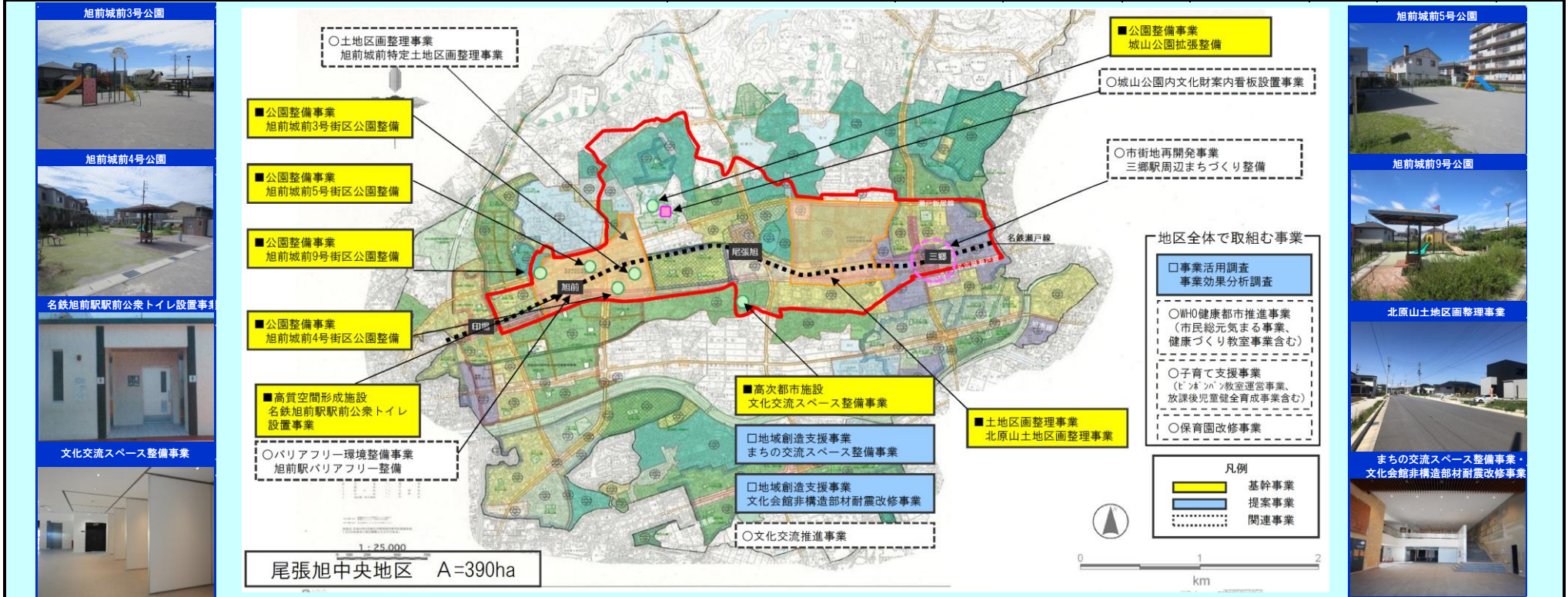
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県		市町村名	尾張旭市		地区名	尾張旭中央地区			面積	390ha	
交付期間	平成27年度～令和元年度		事後評価実施時期	令和元年度		交付対象事業費	3,558百万円	国費率	0.4			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名									
			基幹事業	公園(旭前城前3号公園、旭前城前4号公園、旭前城前5号公園、旭前城前9号公園、城山公園)、土地区画整理事業(北原山)								
	当初計画から削除した事業		提案事業	事業活用調査(事後評価策定委託)								
			事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
	新たに追加した事業		基幹事業	—			—			—		
			提案事業	—			—			—		
交付期間の変更		当初	平成27年度～令和元年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			—				
		変更	変更なし					—				
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	地区内の居住人口	人	24,907	H25	25,011	R元	○	あり	土地区画整理事業等による都市基盤整備が進捗したことにより指標の改善につながっている。	令和2年3月	
	指標2	秩序とやすらぎを感じるまちが形成されていると思う市民割合	%	41.9	H25	48.0	R元	△	あり	旭前城前特定土地区画整理事業の完了直後は、街並みや住環境の向上が身近に感じられ数値が上昇傾向にあったが、完了から一定期間が経過したうえ、北原山土地区画整理事業も地区外のエリアの人は変化を感じづらいため、期待する数値上昇につながらなかったと考えられる。	令和2年3月	
	指標3	子育てしやすいまちだと思う保護者の割合	%	77.2	H25	81.1	R元	△	あり	全体的な数値は減少傾向にあるが、公園等の基盤整備を実施した旭前城前地区に該当するエリアでは数値が上昇傾向にあり、公園や道路整備による効果が得られていると考えられる。	令和2年3月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	都市公園・児童遊園・ちびっこ広場の箇所数	箇所	23	H25	/		33	/	旭前城前地区の新規公園の整備により市内の公園等の数が増加している。	—	
	その他の数値指標2	公園や遊び場が整備されていると思う市民割合	%	25.2	H25	/		25.5	/	H25とH30の値を比較すると横ばいとなっているが、H27・H29は増加傾向となっており、旭前城前地区の新規公園の整備が満足度につながっている。	—	
	その他の数値指標3	秩序ある街区となっている市街地面積割合	%	52.8	H25	/		56.0	/	北原山土地区画整理事業、旭前城前特定土地区画整理事業により、市街地面積割合が増加し指標の改善につながっている。	—	
4)定性的な効果発現状況	・地元住民とのワークショップを通じた公園計画整備を進めていることで、地元住民にとって愛着・やすらぎを感じるまちの一空間として公園整備が進められている。また、公園整備後に住民主導で公園愛護会を結成し、清掃・緑化活動等が実践されており、地域コミュニティの形成充実につながっている。											
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等	
	モニタリング		—			予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった(理由)					—	
	住民参加プロセス		住民参加型のまちづくりの推進として、公園施設整備に伴う住民ワークショップの開催			予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった(理由)					● 今後も公園施設整備検討の際は住民ワークショップなどを開催し、住民の意見を取り入れながら検討を進める。	
	持続的なまちづくり体制の構築		公園愛護会の活動			予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった(理由)					● 住民主導による各種活動を促し、市として積極的に支援していく。	

様式2-2 地区の概要

尾張旭中央地区(愛知県尾張旭市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
(大目標) 「みんなで支えあう緑と元気あふれる住みよいまちづくり」 目標1: 良好な住環境形成により、定住人口の増加を目指します。 目標2: 市民の交流活動や安全・安心の視点から、都市基盤の整備充実を図ります。 目標3: 市民の健康づくり、子育て環境の充実につながる環境整備を推進します。	地区内の居住人口	24,907	H25 25,011	R元 25,306
	秩序とやすらぎを感じるまちが形成されていると思う市民割合	41.9	H25 48.0	R元 35.9
	子育てしやすいまちだと思う保護者の割合	77.2	H25 81.1	R元 70.0



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 旭前前地区の区画整理事業完了と北原山地区の事業進捗により、安全安心に暮らせる住環境整備が行われていることで、徐々に地区内の居住人口が増加しており、周辺地区のアクセス路の整備が求められている。 市内の定住人口が増加するに伴い、市民間の交流を活発化するため、駅周辺における安心できる歩行空間の確保や公園のバリアフリー化、情報環境整備等の施設整備が求められている。 土地区画整理事業による公園の新設は進んでいるが、既存の公園の老朽化が進行している箇所も多いため、老朽化した公園の施設整備改修や長寿命化について検討する必要がある。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 土地区画整理事業による良好な住環境整備を推進するとともに、鉄道沿線の生活利便性の高い地域を中心に、安心安全で多世代の市民交流を促進するための公共空間形成として、公園のバリアフリー化や歩行空間の確保等の施設整備を行う。 多くの建物移転を伴う北原山土地区画整理事業において、計画的な事業推進とその効果発現のためには事業資金の集中的投下が不可欠であるため、都市再生整備事業の有効活用による資金的支援を継続する。 土地区画整理事業を行っていない地域においても、災害に強く誰もが住みやすいまちとするために、道路歩行空間の改良や浸水対策等の整備を行う。